



Certified Social Worker くまもと

特集

熊本地震における災害支援



第56号

【事務局】
一般社団法人
熊本県社会福祉士会

熊本市東区健軍本町1-22
東部ハイツ105

Tel 096-285-7761
Fax 096-285-7762

E-mail :
kumacsw@lime.plala.or.jp

発行者 黒田 信子
編集者 魚谷 康洋
発行日 2016年8月25日

2016年度 定時社員総会開催

事務局長 大保 透



熊本地震で被災された皆様へ、心よりお見舞い申し上げます。

4月に発生した一連の自然災害は、これまでの「当たり前」の生活を大きく変えました。

また、格差社会・無縁社会ともいわれる現在、孤独死や老人・障がい者・児童等への虐待問題、貧困問題はもとより子どもの貧困にも及び日本の将来に暗い影を落としています。私たち社会福祉士はより専門的な見地から「熊本県社会福祉士会は何ができるか。何を為すべきか。」を考え実践することが求められています。

2016年度は一般社団法人に移行して3年目の年となります。対外的にもその認知度は確実に広がっており、公益法人としての展開はますます期待されるものとなっています。

当初、5月28日に開催を予定しておりました定時社員総会でしたが、熊本地震発生により使用可能な会場の確保が困難であつたことから、6月11日(土)に日程を変更し、くまもと森都心プラザにて開催しました。

2015年度事業報告

公益目的事業として、①熊本県社会福祉士学会の開催(参加149名・会員1101名・一般48名)、②生活困窮者自立支援法やSSW活動の理解、地域防災セミナー等、一般県民や医療・保健・福祉の関係者を対象とした社会福祉セミナーを計5回開催(参加488名・会員191名・一般297名)※

2014年度比91名増、③社会福祉よろず相談(通年)では、一人親家庭の相談支援事業を実施し、一般県民の方より6件の相談に対応させていただきました。

会員状況(2016年3月末)

正会員数750名(前年同月比で22名の増加)

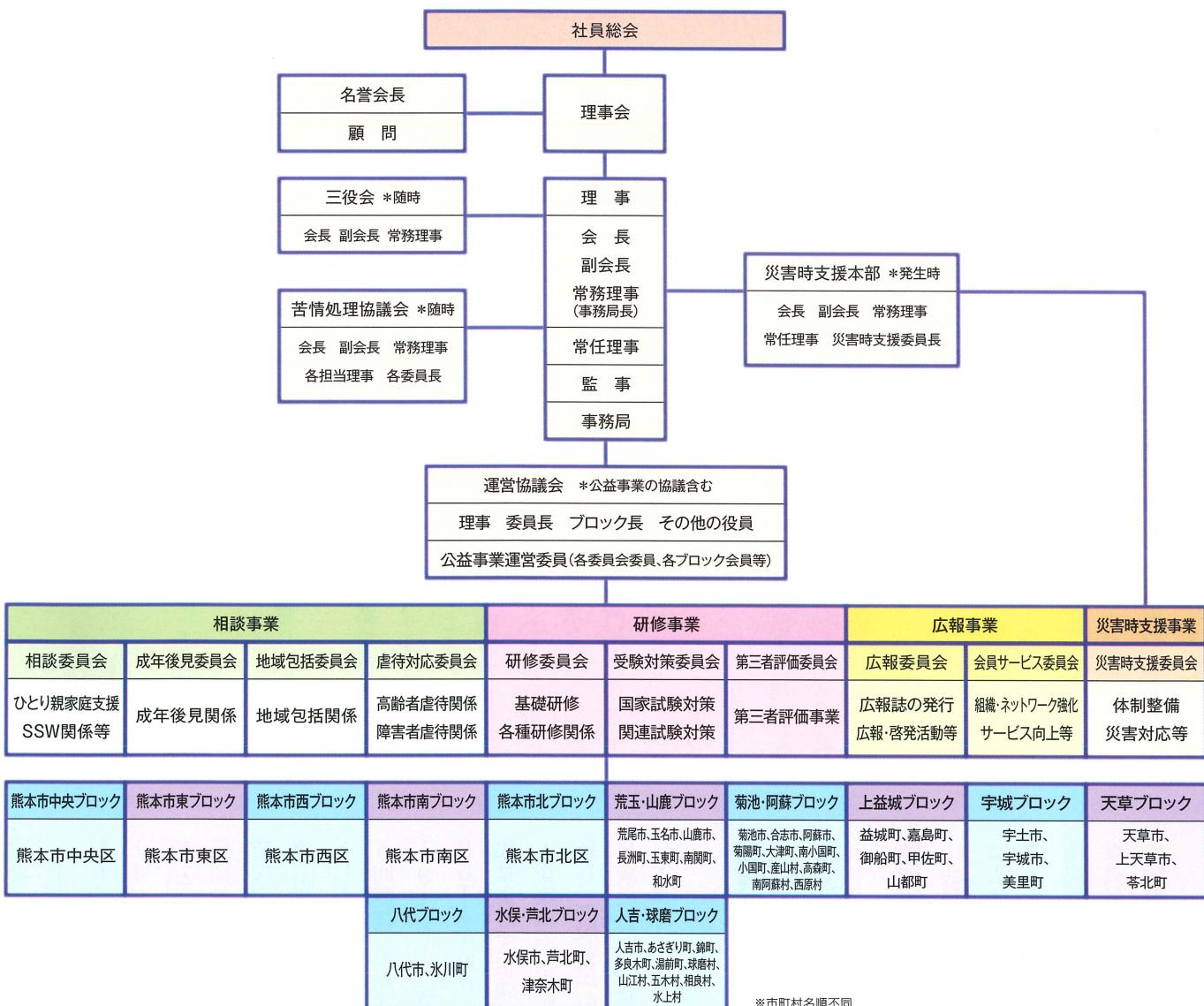
役員改選

会長、副会長、理事をはじめとした大幅な役員改選を行いました。2016年度からの熊本県社会福祉士会の組織図と役員名簿一覧については、次頁に掲載しております。



一般社団法人 熊本県社会福祉士会 組織図

(2016年度) ※2016年4月1日現在



熊本県社会福祉士会 役員一覧

(2016年度)

役職名	理事役割	氏名
理事・会長		黒田 信子
理事・副会長		深谷 誠了
理事・副会長		釘崎 清広
理事・事務局長		大保 透
理事	公益事業	吉本 裕二
理事	相談	西 章男
理事	成年後見	岩井 真美
理事	地域包括	宮下 麻衣子
理事	虐待対応	松岡 美樹
理事	研修	野満 博士
理事	受験対策	岩崎 智子
理事	第三者評価	立花 雄一郎
理事	広報	永田 直往
理事	会員サービス	川上 賢蔵
理事	災害時支援	深谷 誠了(副会長兼務)
監事	監事	本田 千春
	監事	傘 正治
	監事	高江 康明

委員長	相談委員長	山内 恵美
	成年後見委員長(ばあとなあ)	西森 ゆき
	地域包括委員長	窪田 寛史
	虐待対応委員長	松本 健一
	研修委員長	濱川 文彦
	受験対策委員長	福原 建三
	第三者評価委員長	稻垣 昇
	広報委員長	魚谷 康洋
	会員サービス委員長	久保田 享治
	災害時支援委員長	紫藤 千子
	①熊本市中央ブロック長	坂本 真奈美
	②熊本市東ブロック長	丸岡 智宏
	③熊本市西ブロック長	池上 和行
ブロック長	④熊本市南ブロック長	網田 勝也
	⑤熊本市北ブロック長	立山 明子
	⑥荒玉・山鹿ブロック長	新木 隆
	⑦菊池・阿蘇ブロック長	小西 豪志
	⑧上益城ブロック長	川部 岬
	⑨宇城ブロック長	馬場 智宏
	⑩天草ブロック長	田尻 龍一
	⑪八代ブロック長	垣原 勝美
	⑫水俣・芦北ブロック長	高木 真一
	⑬人吉・球磨ブロック長	平山 猛

新任のご挨拶



黒田
信子

きな課題だと考えています。4月の熊本地震では、大きな被害が出ました。被災者となつた会員も支援者となつて、被災地での支援を行つています。そのような中、日本社会福祉士会や他県の社会福祉士会から多くの支援や励ましをいただき全国に仲間がいる心強さを感じました。

これからもソーシャルワーカー専門職として諂ひめられ、県民の期待に応えられる会に発展していくよう、微力ですが尽力していく気持ちでおります。会員のみなさま、関係各位のみなさまのご支援、ご協力を願い申し上げます。

退任にあたり

甲斐國英

会員が一丸となつて成功に導いた7年前の全国大会（1000人を前にのおやじギャグは初めてでした。）思い出は尽きません。今後は第5代黒田新会長の下、若い力を結集し、新生県士会の舵取りをお願いするところです。老兵は去りゆくのみ、アイウイルビーバックはございません。ご安心下さい。最後にありがとう県士会、ありがとう会員の皆様、関係機関の皆様、県士には地震にも負けず、復興に向けて益々その力を發揮されることを

の力を発揮されんことを
願つて止みません。
フレー、フレー県士会、
永遠の恋人へ。

新しい福祉サービス提供の担い手として、特定分野の専門性のみならず、総合的な見立てと、コーディネートする力が求められて います。社会福祉士への期待は更に大きくなつてお り、それに答える人材の育成と確保は今後の大

平成28年6月11日の総会をもちまして、平成

3年からの四半世紀に亘る県社士会の第一線から退くことになりました。雨の中の東京、八王子での全国の設立総会、九州で最初のブロック研修の開催、全国初の受験対策講座開催と問題集作成、前松下監事と二人で司法書士会との連携の下に立ち上げた「ほつとらいん熊本」が「ぱあとなあ熊本」へと繋がり、その間初代岩下会長に始まり、後藤、梅田計3名の会長に仕えた後、社団化を含み12年間会長を務めさせていただきました。また設立期から全国の総務委員長、理事として日本の歴代会長とも親交を結ぶことができました。サイズの危機を乗り越えていただきました。サーブの危機を乗り越えて会員が一丸となつて成功に導いた7年前の全国大会（1000人を前にのおやじギャグは初めてでした。）思い出は尽きません。今後は第5代黒田新会長の下、若い力を結集し、新生県士会の舵取りをお願いするところです。老兵は去りゆくのみ、アイウイルビーバックはございません。ご安心下さい。最後にありがとう県士会、ありがとう会員の皆様、関係機関の皆様、県士には地震にも負けず、復興に向けて益々その力を発揮されることを願つて止みません。

フレー、フレー県士会、
永遠の恋人へ。

特集

— 熊本地震における災害支援 —

災害時支援担当理事・副会長

深谷 誠了

この度、熊本地震により被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。

熊本県社会福祉士会の熊本地震発災から活動概略をご報告いたします。

初動

2016年4

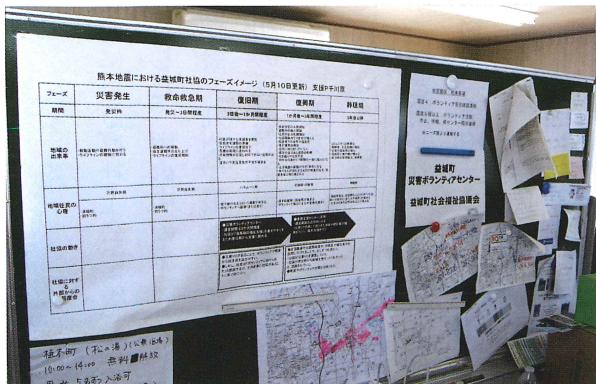
月14日の前震、そして4月16日の

本震により県内各所で甚大な被

害が生じました。



熊本県社会福祉士会は前震発生翌日に三役並びに災害時支援委員会により電話協議し、会員安否の連絡と臨時理事会の招集を行いました。ところがその後の本震により会議開催自体も危ぶまれる中、18日に事務局にて開催し、会員安否の確認、災害時支援本部設置案策定、災害時支援方針の確認（①ソーシャルワークを發揮する支援であること、②被災地が主体となる支援であること、③終了を見据えた継続的な支援であること）等行いました。



災害支援本部の設置

4月22日に災害時支援本部設置を行い、情報収集及び被災地支援の準備に入りました。避難所等からの相談窓口設置要請もあり、県内会員派遣については5月11日に公募を開始し、6月1日より2拠点（益城町・熊本市）においての相談窓口対応を行つております。

日本社会福祉士会からの支援

日本社会福祉士会からは発災当初より熊本県支部事務局機能の回復支援や被災地活動支援要請等があり、鎌倉会長をはじめ多くの役員・事務局員の方々の来熊を頂きました。6月13日からは日本社会福祉士会の中長期の支援活動として西原村包括支援センターへ社会福祉士を2名の派遣を開始されています。

これから「支援のかたち」は状況により変化していきます。その変化は被災地が主体となり、立ち上がりしていくためのものであると思います。現地の声に応えながら、これからを描けるようなソーシャルアクションを発揮できるよう進めていきます。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



被災当事者としての 避難所運営

神谷 公省

自助グループの立ち上げ

4月14日と16日の地震発生で私は家族とともに自宅近くの小学校体育館に避難しましたが自分自身が被災した現実をなかなか受け入れる事ができますいました。

余震が続く中、避難所には多くの方々が集まります。施設管理者である学校の先生方、市役所の職員の方々が対応に当たられますが混乱が続き、当事者による避難所の運営参加の必要性を感じ、自助グループの立ち上げを決意しました。自助グループの立ち上げの声かけに賛同した20名、施設管理者である小学校、避難所運営者である熊本市、被災当事者である自助グループの3者共同での避難所での活動が開始されました。当初、避難所には300名を超える方々が避難され、水も食料の備蓄もなく、トイレを流す水もない状況でした。

リーダーとして

自助グループのリーダーとして、私は多くの方々の意見を集約し、行政、学校の担当者の方々と状況の把握とその対応にあたりました。具体的には避難所

の区画整理、津波発生を想定した校舎までの避難ルートの確保、避難者の名簿作成、避難所の環境整備、支援物資の調達とその管理、食事の用意、避難者の方々の状況確認と必要である専門職への連絡等、3ヶ月のお子さんから94歳の高齢の方のことを考えながらどうすれば避難所がお互いを尊重し、共同の生活が行われるのかをその都度、関係者とともに考えていました。

ソーシャルワーカーとして

互いの立場と現状を理解し、何をすべきか判断をし、実行していくこと。避難所という非日常生活のなかで当事者でありながらもSWがるべき行動について考えた避難所での9日間でした。人はどんな状況でもお互いを尊重し認め合うことで共生できる環境を作りだすことが出来る。これからも厳しい状況が続くと思いますが微力ながらも被災された方々の日常に寄り添えたらと願っています。

被災の大きかつた西原村の仲間に電話しました。困っているのではないか、邪魔になるのではないか。できることはないか。と迷い問い合わせボランティアに行かせていただきました。

我々は、支援が仕事ですが、お互い助け合うこともできるでしよう。

支援やボランティアは、自分のすべきことや役目を果たして、なお力のある時に自ら動き、ちょっとずつ力を出し合ってつながっていくことが大事です。決して無理をせず、その人なりの支援の仕方があると思います。

それから、大切なことは、支援を受ける側が中心にならなければならぬということです。支援にうかがう市町村が、自らの力で立ち上がりけるような支援を心掛けたいです。

まだまだ、地震への不安だつたり、元気が出ないときもありますが、しっかりと食べて、眠つて、笑いましょう。

支援をすること・ ボランティアをすること

災害対策委員会 紫藤 千子

今回の、熊本地震で被害にあわれました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

昨年、熊本県社会福祉士会で、災害対策委員会を

立ち上げましたが、それでも、どこか他所事だつたと思います。まさか我が身に起ることは。地震が起り、私は被災者なのか？ そうではないのか？ 動ける被災者ではないかと思いました。

様々な現場で戦っているであろう社会福祉士の仲間のことでも頭に浮かびました。何かできないかと。何か動き出さないと、私自身もダメになりそうでした。

ぱあとなあ熊本全体会議



また、会員の支援体制強化や連携の強化、不正の防止を目的に今年度から開始された全員面接や包括ネットとの合同研修会について報告があり、次年度も継続して行なう計画となりました。

2015年度ぱあとなあ熊本全体会議・研修会が、2016年1月30日(土)、熊本市中央公民館にて行われました。

ぱあとなあ熊本全体会議は、年1回開催されており、事業報告や次年度次行計画案の検討等を行なっています。

会議の前に研修会が開催され、担当理事の岩井真美さんに、「社会福祉士のジレンマ」と題して講演していただきました。

後見人として活動する目的は、本人の望む生活を実現していくことです。病気や障がいにより判断能力の低下した本人の声なき声を汲み取ることは容易ではありません。行なった判断が正しかったかどうか、本人の権利を侵害していないか等、常に悩みながら活動しています。

研修会を通して、社会福祉士が行なう後見活動の意義は、漫然と活動することではなく、そのように悩むことにあると再確認し、悩む時こそ原点であるソーシャルワークの価値や倫理綱領に立ち帰るべきということ等が検討されました。

全体会議では、運営規定等の改定が検討されました。年々増加する受任者や受任件数変化する社会情勢に対応し、継続可能な組織活動となることを目的に話し合いが行われ、会員にぱあとなあ熊本の活動に専念する義務を課すこと等が検討されました。

「援を考える」という表題での研修会でした。これまで講演中心の研修会でしたが、今回は事例を通してのグループワークでした。



一他職種連携による 生活困窮者支援を考える

天草ブロック 高橋 浩範

2016年3月4日(金)天草市民センターにて天草ブロック研修会が開催されました。会員の大野一弘さんを講師とし「他職種連携による生活困窮者支

援を考える」という表題での研修会でした。これまで講演中心の研修会でしたが、今回は事例を通してのグループワークでした。

事例の対象者は73歳の男性。要支援1で視覚障害がある。施設入所の経験もあるが、入所者間のトラブルで退所。独居で在宅生活をしている。自宅は、ごみ屋敷状態で住環境を整えないとサービスが利用できない状態。兄弟とも疎遠である。若いときからギャンブル好きで借金はあるようだが、具体的な金額は不明。借金返済のため年金額が減少し、経済的に非常に厳しい状況である。「ライフ・ライン・メソッド」と呼ばれるシートを使い、事例についてどう支援していくかの個人ワークがありました。その個人ワークをもとにグループワークに移りました。時間軸を元に関係機関とその担当者がどのように関わっていくかを協議しました。グループ発表は、「支援の方針」と「重点項目を3点」発表するというものでした。共通内容として支援の方針は、「本人の意向の確認する」重点項目は「住環境の整備」「金銭管理」「サービス利用につなげていく」ということが発表されました。最後に大野さんから「自己調整機能を失っている状態(アディクション…例として、ギャンブル依存、アルコール依存など)の対象者は、管理されたサービス提供は、本人が拒否して支援が台無しになつた経緯があり、ゆるい関係性を保ちながら、本人が受け入れるように支援しています。ちょっととした習慣が、今の悪習慣につながっているので、対象者の気質や性格をみながら支援していきたいです。今回の研修で、気づかなかつた事もあり、参考になりました」とまとめられました。

公益事業講演会報告

「非行を乗り越える」～元家庭裁判所調査官からのことづて～

相談委員会 黒田 信子



をお招きして、講演会を開催しました。

98名の申込みがあり当日参加もありました。年齢は20代から60代までと幅広く、職種も学校関係や児童関係者だけでなく、学生や医療関係、障害関係等の多くの方が参加されました。

講演では、最近の非行の現状は、動機の分かりにくさや非行を行うハードルの低さがあること、少年の内面は年齢と比較して幼く、人とのつながりの希薄さがあること、メディアの影響も大きく、家庭や友だちの中で居場所がないことが考えられ、非行は少年の心身のSOSと捉えられるとお話をありました。

また対応は厳罰化の傾向と、調査や審判の過程で少年や保護者に対して教育的働きかけも行われ、多様化していることが述べられました。法律は集団の目的と利害のために個を制御することが本質であるが、家庭裁判所は個の福祉を守る面があり、司法的機能と福祉的機能の調和を図るときに、人間関係援助者

として葛藤があるとのことでした。
事例の紹介があり、父を乗り越えようとしている少年や、暴走族の少年の家庭環境を改善するために、言葉の添え木として絵を使つた説明がありました。

次に、具体的な援助方法の紹介があり、例外の発見やコーピング、スケーリングクエスチョンの活用、凸凹の凸に焦点を当てること、過去より未来を考える、通信簿の活用や家族員での共同作業と、お話を聴きながら自分自身が関わっている相談ケースに使えそうな対応方法を学ぶことが出来ました。



2016年2月28日（土）九州ルートル学院大学に、臨床心理士で西南学院学院大学非常勤講師の元家庭裁判所調査官山崎一馬先生

役立つ講演会を企画して行きたいと思つています。

社会的養護と 里親制度

熊本市東ブロック 谷口 由紀子



化しているということです。また同時に養育に困難を抱える家族への支援も行われています。

熊本市東ブロックと上益城ブロックは、毎年合同で年2回の研修会を開催しています。

今回第2回目は平成28年3月5日に嘉島町民会館にて行いました。講師に熊本県社会福祉士会理事でありNPO法人優里の会理事の黒田信子さんを迎え、「社会的養護と里親制度」と題して講演していただきました。参加者は16名で、人吉球磨ブロックからの参加もありました。

講演では、社会的養護の現状、里親制度についてビデオや事例を通して説明がありました。「社会的養護」とは、保護者のない児童や、被虐待児など家庭環境上養護を必要とする児童などに対し、公的な責任として社会的に養護を行うことで、対象児童は現在約4万6千人と増加傾向（平成26年3月厚生労働省）、課題としてはいじめ、不登校、非行や虐待など、子供の問題が深刻

からありました。

NPO法人優里の会は、里親と子ども（里子）の支援と里親制度の普及啓発のため平成24年10月に設立され、講演会、研修会、サロン、里子の就労支援など、様々な活動をされています。

研修会の最後には、参加者一人一人が感想や質問を発表し研修会を終了しました。



ブロック紹介

宇城ブロック長 馬場 智宏

宇城ブロックは、宇城市、宇土市、美里町在住の41名で構成されており、「ブロック会員の資質向上とネットワークの拡充を図ること」を目的に、熊本市南ブロックと合同で年に2回の研修会並びに名刺交換会を開催しています。

2015年度の活動としましては、第1回目の研修会を「スクールソーシャルワーカー(以下、SSWR)の仕事について」をテーマに、本会理事の黒田信子氏にご講演頂きました。SSWRの仕事内容だけでなく、社会から期待される役割、現状と課題について具体的な話題を提供いただきました。

そして、第2回目の研修会では、「災害ボランティアセンターの運営から見える支援の現状と課題について」をテーマに、熊本県社会福祉協議会の西村雄一氏に講演をお願いしました。印象的な言葉としては、日々から地域の防災力、防災意識を高める訓練等の実施をすること、地域の状況(地域内につながりや助け合いを把握しておくこと)、また、大規模災害時には、被災地の復興を迅速に進めるためにボランティアを地域で受け入れる環境、知恵等を示す「受援力(支援を受ける力)」が欠かせないということでした。

2つの研修から共通することとして、様々なフィールドで活躍する私たち社会福祉士にとって実際に何ができるのか?を自問自答しながら現場で仕事しなくてはいけないと痛感させられ、有意義な研修が開催できたのではないかと感じています。私たち社会福祉士に求められる役割・活躍が期待される分野について広がりを見せているなか、分野に捉われず、ブロック会員のニーズに沿った研修会を

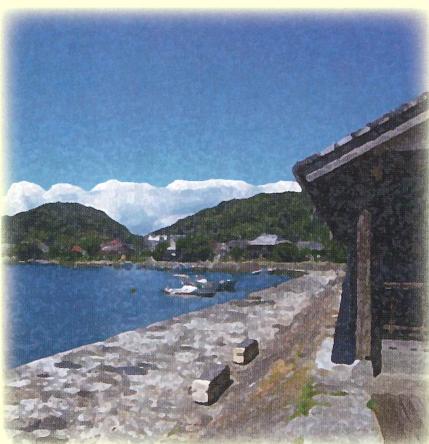
開催していきたいと思います。

思えば、私自身本会に入会してから、このブロック会という場は、身近で様々な分野で働く先輩方や仲間達と出会った場であり、ここで沢山の学びとパワーを頂きました。これまで、このようなブロック会を運営頂いた歴代のブロック役員の皆様方に深く感謝申しあげますとともに、皆様方と一緒にこの宇城ブロックを盛り上げていきたいと思います。

最後になりますが、熊本県のほぼ中央部に位置する宇城ブロックには、明治日本の産業革命遺産の構成資産として世界遺産登録された「三角西港(宇城市三角町)」、日本の渚百選・夕日百選に選定されている「御輿来海岸(宇土市)」、日本一の石段(美里町)や各種ツーリバスコース等があります。

他ブロック会員の皆さん!

宇城地区にお越しになる機会も少ないかと思いますが、是非観光と併せて宇城ブロック研修会等にもご参加ください。お待ちしています。



事務局よりお願い

熊本地震で住居が変わられた方は事務局までご連絡ください。もしくは、HPより住居変更届をダウンロードしてご提出ください。

つぶやき



平成28年熊本地震で被災された皆さまへ、心よりお見舞い申し上げます。
当たり前の生活のありがたさを、しみじみと味わう日々です。

いつ終わるかわからない余震に怯えながらも、台風のよう過ぎ去っていくのをじっと待つわけにもいかず少しずつ日常生活を取り戻していく日々。

石垣が崩れてもなお立ち続ける熊本城の姿に、こみ上げてくるものがあります。部分が壊れても、土台があれば積みなおして何度もやり直すことができるのだ。

自家のマンションの住民同士が挨拶を交わすようになりました。スーパーの店員さんと、仲良しになりました。「熊本、だいじょうぶですか?」東京にいる元同僚より、久しぶりのメール。先日母親になりましたと、かわいい赤ちゃんの写真が添付されていました。ご縁は、細くとも強くしなやかに、これまでとこれからを織り交ぜながら紡がれていくことを感じています。

無事だった者が、元気な者が、踏ん張らねばと、強く思います。

いつだって当事者意識を持つていたい。他人ごとではない、自分のこと。自分にとって大切な「当たり前の重さは、他の誰かとも同じもの。」その重さを感じ続けていたいと思います。